錯誤捕獲防止効果の高いくくりわなについて

くくりわなによるツキノワグマの錯誤捕獲防止の取組みが急務！

島根県内ではニホンジカが分布拡大しており、農林業被害が増加しています。被害軽減に向けた捕獲強化により、くくりわなを用いた捕獲が広がっています。

- 島根県内では、くくりわなによるツキノワグマの錯誤捕獲が、過去５年間に毎年30件程度発生しています。
- **くくりわなでの錯誤捕獲は非常に危険であり**、県外では重大な人身事故が発生しています（詳細は裏面参照）。

錯誤捕獲の防止効果が高いくくりわなの構造について

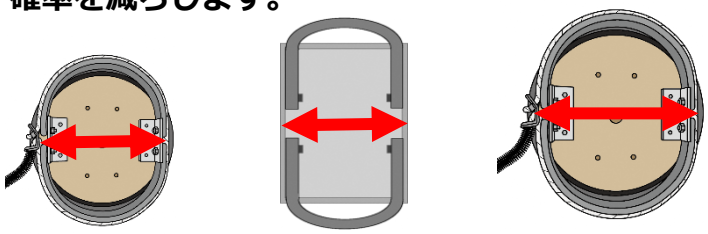
ポイントは①作動面積を小さくする、②くくり輪の最小径を可能な限り大きくすることの２つです。
下記に紹介する具体例を参考に、使用するくくりわなの選定及び、くくりわなの作製や改良を実施しましょう。

①作動面積を小さくする

ツキノワグマの
前足の掌の幅は最大約12㎝
後足の掌の幅は最大約11㎝です。

最大約12㎝

くくりわなの最短径が12㎝のものや作動面積の小さいものを選択することで、錯誤捕獲の発生確率を減らします。

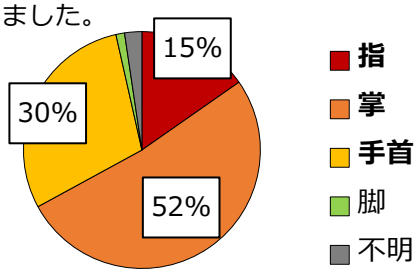


作動面積 **小** ⟷ 作動面積 **大**

県内でのツキノワグマのくくりわな錯誤捕獲事例

- **前足にわながかかった個体は、全体の77%と多い**
- **くくる部位は掌が多いが、指をくくる事例も15%ある**

前足にかかった事例について、くくられた部位別にみると、掌が最も多く52%、危険な部位である指が15%ありました。



②くくり輪の最小径を可能な限り大きくする

締めつけ防止金具を端から約12㎝の位置に付けることで、万が一ツキノワグマの指にくくりわながかかっても外れやすい輪の大きさになります。
なお、12㎝の位置でもニホンジカやイノシシの足が抜けることは非常に少ないです。

法律では、くくりわなへの締め付け防止金具の装着が義務付けられています。
締め付け防止金具には、下図の例①、②のように、様々なタイプのものがあります。**くくり輪が一定の大きさより小さくならないよう制限できる①の方が、錯誤捕獲の防止効果が高い**と考えられます。

締め付け防止金具の例

ツキノワグマの錯誤捕獲による人身事故事例

◆ **死亡事故（令和５年10月長野県）**

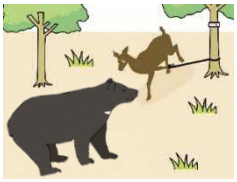
くくりわなの見回りに来た被害者が、錯誤捕獲されたツキノワグマに襲われて死亡した。現場の状況確認から、ツキノワグマは、後足にワイヤーがかかっており、数メートルは動ける状態にある中で、被害者がツキノワグマの動ける範囲内に近づいてしまい襲われたとみられる。

◆ **重傷事故（令和６年７月兵庫県）**

くくりわなにかかったツキノワグマを発見し被害者が近づいたところ、わなが外れて襲われた。被害者は全身を引っ掻かれて重傷を負った。

どちらの事例も見通しの悪い環境で、ツキノワグマがいることに気づかずにくくりわなに近づいてしまったとみられます。

くくりわなにかかったニホンジカにツキノワグマが餌付く事例も発生しています。中には、味を覚えてニホンジカの捕食を繰り返す個体もいます。ツキノワグマの足跡等の痕跡が確認された場所では、わなを設置しない、わなを移設するといった対応が必要です。

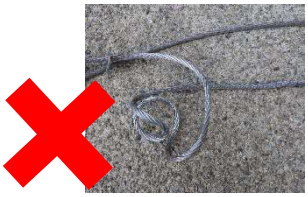


事故に遭わないためのポイント

ツキノワグマだけでなく、イノシシやニホンジカによる逆襲等の事故を防ぐために、わな設置手順や見回り手順を守りましょう。

わな設置手順

◆ わなの点検をしっかり行い、強度が足りていないわなは使用しない。



ワイヤー等の捕獲により摩耗する部品は、目に見えない劣化もあるため使いまわさない。

◆ 見通しのよい場所に設置する。

◆ 丈夫で生きた太い木に根付をとる。

◆ 根付からより戻しまでのワイヤーは、できるだけ短くし、捕獲した動物の可動範囲を狭くする。

◆ 根付木にワイヤーを寄り込み、ワイヤーの摩擦で根付木に固定する。シャックルだけで留めない 。

見回り手順

◆ 必ず斜面の上の安全な位置から、捕獲の有無を確認する。

◆ ツキノワグマがうずくまって確認しづらい場合があるため、確実にいないことが確認できなければ、わなには近づかない。

◆ 万が一、錯誤捕獲が確認された場合は、速やかにその場を立ち去り、島根県に連絡をする。

問い合わせ先

島根県農林水産部
農山漁村振興課鳥獣対策室
TEL：0852-22-5160